

【ミッション】

日本産業の国際競争力の向上、企業価値の向上を目的とした、知的財産施策の推進にあたり、知的財産マネジメントの指標となるべきテーマを取り上げて研究を行い、その成果を広くメンバー会社あるいは国の政策、さらには世界の知財機関に対して適切に発信していく。

【研究テーマ】

対象： 知的財産のマネジメントに関連するテーマ

視点： 企業の知財経営からの視点

体系： 1. 知的財産経営

(MOT、IR、M&A、グループ経営を含む)

2. 知的財産の創造

3. 知的財産の保護

4. 知的財産の活用・評価

5. 知財活動を支える施策

(職務発明、知財実態調査、人材育成を含む)

6. 知的財産政策への提言

知的財産マネジメント委員会の活動テーマ

【知財政策】

- ・企業にとって本当に必要な知財政策('07)

【知財経営】

- ・知財情報を活用した知的資産マネジメントの研究('09)

- ・知財マネジメントと企業経営との関連分析('08) ・今後の知的財産組織のあり方('09)

- ・M&Aにおける知財部門の役割('08) ・経営に資する知的財産活動のあり方('07)

【活用】

- ・発明の評価方法と評価データの蓄積に関する研究('09)

- ・知財マネジメントのKPIの研究('08)

【保護】

- ・技術流出防止('07)

【支える施策】

- ・知財実態調査('09)

- ・知財マネジメントとコストパフォーマンス('09)

- ・戦略的思考を持つ知財人財の育成方法('08)

- ・知財活動と税金('07)

【創造】

- ・オープンイノベーションにおける知財経営のあり方('09)

- ・海外特許事務所のマネジメント('09)

- ・特許事務所の活用施策と評価方法('08)

- ・世界の企業の知財部門の状況調査とグローバル知財マネジメント('08)

- ・研究開発成果の評価(ステージゲート)('08)

- ・経営に貢献する強い特許を生み出す施策('08)

【2009年度活動方針】

現下の経済不況を克服し、企業の競争優位性を導くための知的財産マネジメント活動を目指す。国内外の知財を取り巻く環境変化を先取りし、一步前を見た提言を発信する。

【2009年度知的財産マネジメント委員会 委員像】

委員数：87名（男性79名、女性8名、平均年齢46歳）

会社での業務：企画関連 47%、権利化関連 45%、渉外関連 8%

【年間活動スケジュール】

小委員会活動
4～10月

全体委員会
(中間報告会)
10月

小委員会活動
10～3月

全体委員会
(成果報告)
3月@品川

知的財産マネジメント第1・第2委員会 中間全体委員会
'09年10月30日 シスメックス株式会社にて



知的財産マネジメント委員会 委員心得

一、積極的に情報を共有し、自社の知財活動にも参考・ヒントとなる意見交換を行う。

一、意気に感じ、創意工夫して粹に活動する。

一、各小委員会の運営を自己のマネジメントスタイル確立の場と考え行動すると同時に人脈形成に役立てること。

一、研究成果をいち早く自社に持ち帰り、自社の知財活動につなげる努力をすること。

知的財産マネジメント委員会の活動をして良かったこと

常務理事会の特許庁・経産省からの政策関係情報は、ホットニュースとして、毎度フィードバックして活用。

やはり人脈！共同出願案件の相手会社の担当者や上司が委員会活動を通じて得た人脈だったので、スムーズに進行できた。単なるセミナーや単発の会ではなく、1年間の委員会活動の継続審議や合宿を通じて得られる賜物。

論説に掲載しなかった情報が非常に参考になり、これが契機となって、外国現地代理人の起用方針と料金体系を抜本的に見直した。

継続審議の場で参加メンバー企業での様々な知財部門のあり方を聞き、自社内での知財部門のあり方の改善を議論するときに、多角的な視点から議論できた。

各小委員長のプロジェクトマネジメントの良い面、悪い面を実際に体験でき、非常に勉強になりました。このような経験が、ベストプラクティスの水平展開や反面教師として、実際に会社の中で、プロジェクトを運営する際に役立っています。

グループの知財管理のあり方等知財マネジメントのやり方について、小委員会での貴重なご意見を参考にさせていただき、社内だけでは数年かかりそうなことも、1度の意見交換で解決できた。

おかげさまでマネジメント委員会に2年強所属した結果、部長になることができました。

専門誌を自ら購入し読むようになった。米国知財関連判例は読んでいたが、マネジメント委員会は資産価値の視点も必要で、会計・資産評価絡みが増えた。予算・実績管理や見える化の推進に大変役立っている。